

千葉県農林水産部訪問時の意見交換内容について

令和4年7月27日

一般社団法人千葉県農業協会

稲作部会

- 1 近年にない肥料や資材費の高騰、機械代及び燃料代に対する支援を願う。
- 2 農家人口が減っていく中で、一人当たりの面積が増えて来ることに配慮した基盤整備を願う。
- 3 米をご飯以外の素材として使えるように考えてもらいたい。また、一つの流れである生米パン等を県が推奨して学校給食等で広めてほしい。
- 4 ICTとしてRTK基地局の設置を強く要望したい。
- 5 施設関係においては燃料費高騰対策で多少のお金が出るような動きがあるが、稲作の乾燥施設も対象にしてほしい。
- 6 イモ、米、果実等千葉県農産物の拡販のために輸出を真剣に考えてほしい。
- 7 愛知県のような農業用水に係る事故があった場合において、工業に優先的に水が回るといったことが無いように、事前に対応策を明確にしておいてもらいたい。
- 8 両総用水は、原理原則では補給水という建前があるが、各支川ごとの補給量は昔から違いが無い。今後、適地適作を考えて、水の無い地域ではデントコーンを作るとか、飼料用に特化した地域づくりで収益が上がるようにするとか、棲み分けを考えてほしい。
- 9 市場価格に任せ、価格転嫁ができない中、他産業並みの経営はできない。生産性を極めようとする若い社員など次の世代が付いてこれない。SDGsなどと言っても現状では、持続不可能な農業の状況であり、難しい。
- 10 土地改良において、何年後かに採択されようかという状況になっている。その一方で、毎年1ヘクタール、2ヘクタールという規模で耕作できない人が出てきており、周りに耕作を依頼している。土地改良の採択待ちの間、実際に耕作している人は機械や施設において、面積的にいっぱい状態となっており、採択前に先行して認めてもらいたい。
- 11 土地改良が採択されたときには、廃業農家の10ヘクタール、15ヘクタールといった面積が出てきてしまうが、これを吸収できる農家が少なくなっている。価格の高騰や米価の下落で意欲が無くなってきているので、その対策を何とかしてほしい。

生産販売推進部会

- 1 2月に提出したパブリックコメントに対する千葉県の回答について確認したい。
- 2 緑の食料システム戦略について、千葉県の現実的な戦略や計画を作る段階で、実際に有機農業等に携わる生産者のノウハウを活かしてもらいたい。

- 3 資材費高騰により間違いなく生産者も値上げをしていかないといけないので、我々農産物の価格が上がって行くことに対して消費者が受け入れられるような働きかけを、県にお願いしたい。
- 4 千葉県農政にとって、千葉県農業協会を身近な相談役にしてもらいたい。県の計画等の作成において計画段階から一緒に参加できるような関係性を持ちたい。

養鶏部会

- 1 飼料高騰対策については、6月補正予算で事業化していただき感謝している。しかしながら、全国的にも有数の畜産県であることから、もう少し力を入れてもらいたかった。
- 2 耕畜連携については、うまく機能していない部分を強化してもらい、実際に動けるような環境づくりをお願いしたい。

肉用牛部会

- 1 一番の課題としては家畜飼料の高騰がどうしようもないレベルまで来ていることである。県の支援策はありがたいが、他県と比べて少し少ないと思う。
- 2 現在の問題点をなんとかすることも非常に重要ではあるが、千葉県の未来の農業のために新たな仕組みを作ってもらいたい。

首都圏の中であって、消費地と産地が近いというすごく恵まれた環境にあるが、恵まれているがゆえに、遅れていってしまうと感じている。

※ 大分県から土地も人も補助も用意するから、大分県で農業をやらないかといったダイレクトメールが届いた。日本中の農業法人に案内していると思われるが、本当に人が少なくなってきた、農地がどんどん余ってきているような所では、県を上げてそういうことをやっている。是非、千葉県も少し先を見ながら計画を作ってもらいたいと要望する。

養豚部会

- 1 生産者として飼養衛生管理基準の遵守に努め、豚熱が発生しないよう心掛けるが、万が一千葉県内で発生した場合、農場が再開できるまでの十分な支援をお願いしたい。
- 2 千葉県の食肉処理場の再編整備を進めるに当たり、食肉処理場や流通関係者だけでなく、生産者からの出資を含めた経営参加も検討願いたい。流通業者に主導権を取られることで生産者にとって不利な食肉処理場となることを懸念している。

なお、食肉処理場の稼働率が経営を左右すると考えられる中、食肉処理場に出荷し、利用する生産者が経営に参加するのが当然であり、ひいては食肉処理場の経営の安定につながるものと思われる。

酪農部会

- 1 畜産飼料価格高騰緊急対策事業はありがたい事業であるが、現在の社会情勢からは一時しのぎにしかない。酪農家の生産意欲を維持し、今後予想される多くの離農

を防ぐためには、再生産可能な乳価の見直しが必要と考えられ、乳業への指導・要請や消費者の理解醸成を強力に進めてほしい。

- 2 需給改善のために公費による子ども食堂への継続的な提供など新たな消費拡大の機会創出をお願いしたい。

その他

試験研究課題の要望を聞くシステムの改善をお願いしたい。